令和5年10月
第628号
刈谷市教育委員会
刈谷市児童生徒愛護会

のぞましい家庭教育のしおり

～有意義な「読書タイム」を～

子どもたちは、毎日の学校生活の中で、朝の読書に取り組んでいます。中学生になると多くの子は、予め自分で本を選んで用意しています。そこで、私は自分自身が今までどんな視点で本を選んで読んでいたのだろうと思い返してみました。中高生のときは、「この本が面白い」と世間でささやかれていたもの。大学生のときは、卒業論文に関わる参考資料や授業で扱う人の本など。社会人になってからは、仕事やそれに関わる人々との会話に必要なことや、学びがありそうだなと思う本を手当たり次第に読んでいたことを思い出しました。しかし、それぞれの年齢で振り返ってみると、とりわけ鮮明に記憶に残っている本は、どれも大切な人のことを想像しながら読んだ本ばかりでした。

「こんな言葉があったら、自分の大切な人は喜んでくれるだろうな。」

「こんなシチュエーションだったら、自分は大切な人にどんな言葉を託すのだろう。」

「この主人公の気持ちを大切な人に伝えたら、どんな感想を言ってくれるのだろう。」

今考えてみると、自分の気持ちを何とか言語化させたかったのだろうと思います。新しい言葉や気持ちに出会えたときは、付箋を付けて何度も読み返していました。そして、何度も反芻して飲み込んで、大切な人に自分の考えを話したり書いたりして伝える時間が、たまらなく好きな時間でした。

そして、大人になって、又吉直樹さんの『夜を乗り越える』の中の一節を読んだ時、読書についての自分の考え方がよりいっそう確かなものになりました。その一部分を紹介します。

「自分は世界のひとつであってすべてではない。世界には無数の視点が存在している。その中から自分の答えを見つければいい。そもそも答えは簡単に出ない。本はそのことを教えてくれます。その先にきっとそれぞれの道があると思います。」

今私は、大切な子どもたちに、自分がたくさんの読書で得た言葉を伝えたいと感じています。ぜひご家庭でも、読書を通して、子どもたちと大切な言葉を味わえる時間がもてることを願っています。

一人で悩まないで、まず相談を

・刈谷市 **子ども相談センター** ～子どもに関する相談の総合的な窓口～

月～土曜：9時～17時（国民の祝日・年末年始を除く）

☎：62－6313 電話相談・来室相談

・刈谷市 青少年電話相談 ☎：23－8888 月～金曜 9時～17時

・県教育相談 こころの電話 ☎：052－261－9671 10時～22時